

2024年3月12日

令和5年度地域部活動推進事業に係る実証事業研究報告会及び研修会

# 地域クラブ活動の充実に向けた環境の一体的な整備

## 部活動の地域移行（連携）のイメージ

—結論を急ぐのではなく、色々な可能性を模索することが大切—



民間企業



競技団体



総合型地域スポーツクラブ



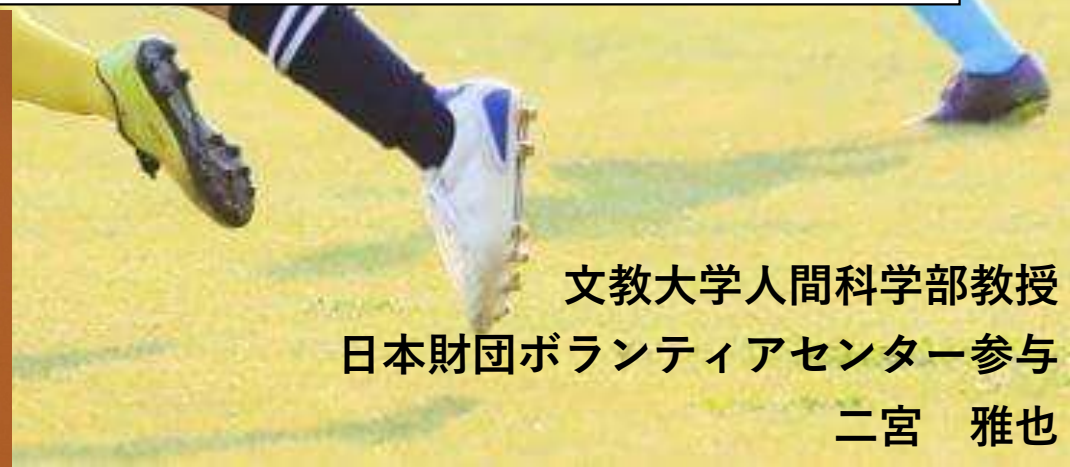
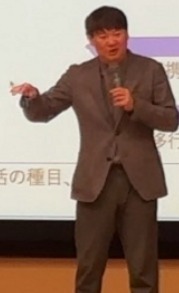
大学

その他  
etc.

### ポイント

自らの地域にあった移行の形を模索すること

市町で統一した形で行うのか、中学校ごとに移行（連携）するのか、各部活の種目、ごとに移行（連携）するのか？



文教大学人間科学部教授

日本財団ボランティアセンター参与

二宮 雅也

# 問題の所在

## 部活動が抱える課題

- 大会に出場できない、あるいは近い将来できなくなる  
(少子化により既存の部活動の維持が難しい地域が多数存在)
- 生徒たちのやりたい活動内容があるとは限らない  
(限定されたメニューからしか選択できない)
- 専門的な指導が受けられない (専門性を持ち合わせない教員が顧問となってしまう)

## 教員が抱える課題

- 教員の超過勤務の実態 (特に、土曜日、日曜日の部活動による拘束時間)
- 部活動における教員の専門性
- 一方で、教育の手段として部活動が機能してきた (人間関係の構築、生徒指導等)
- 教員の教育的アイデンティティとしての部活動の関係性 (仕事とボランティア)

部活動の本質的な問題と、働き方改革、教育手段論等の複雑な問題が重層的にからみあっている

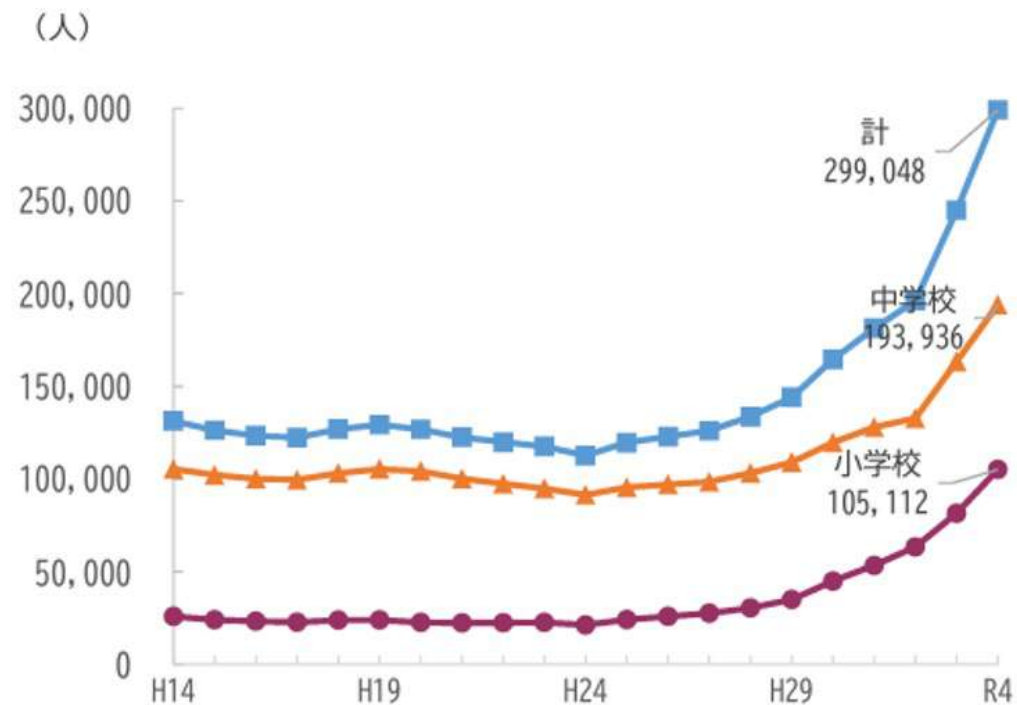
# 学習指導要領総則より

教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。**特に、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動**については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。**その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。**

そもそも地域と連携しながら工夫して行うもの

# 部活動改革のもう一つの隠れた課題（子どもたちの居場所）

## 不登校児童生徒数の推移



そもそも、学校だけをテーマとしている時点で、問題の本質から外れている

「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」（文科省）  
先端教育オンライン  
<https://www.sentankyo.jp/articles/2ee12fc6-a856-4cb5-a230-026803c5bcc2>



# 部活動の地域移行（連携）のイメージ

—結論を急ぐのではなく、色々な可能性を模索することが大切—



中学校



民間企業



競技団体



総合型地域スポーツクラブ



大学

その他  
etc.

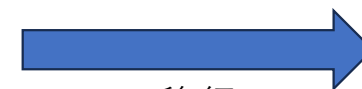
その他

ポイント

自らの地域にあった移行の形を模索すること



連携

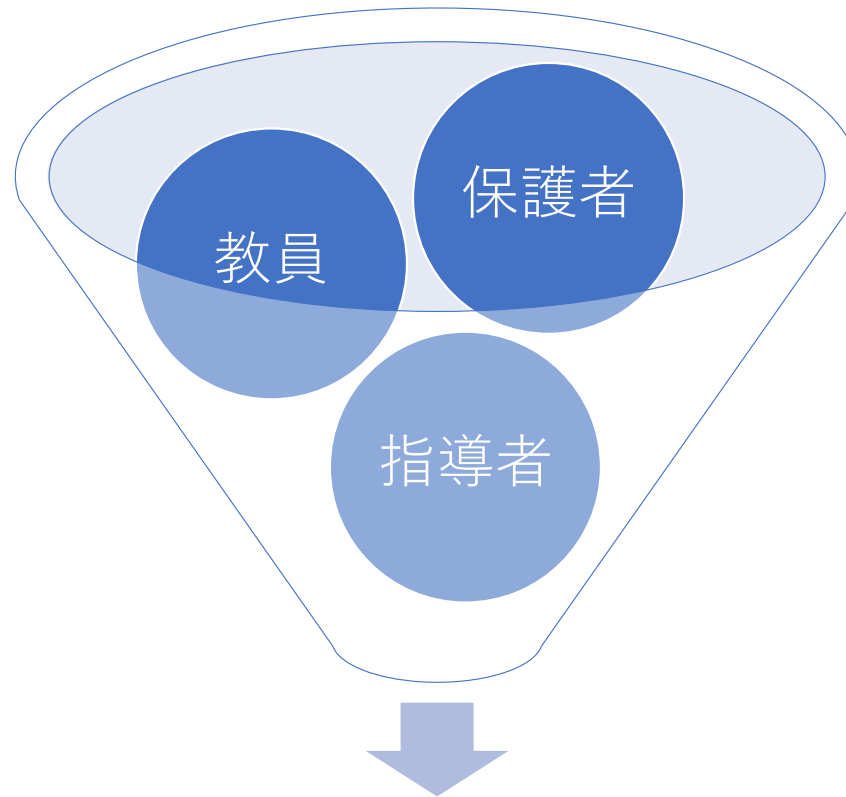


移行

市町で統一した形で行うのか、中学校ごとに移行（連携）するのか、各部活の種目、活動内容ごとに移行（連携）するのか？

# 地域移行を成し遂げるために必要なこと

それぞれの想いを共有する（コミュニケーション）場を設定する



ポイント

共有なしには協力も得られない  
当然、移行もできない

部活動の未来を共有する

# 生徒の主体性を今こそ

- 実は、部活動改革が進んでいることを知っている中学生は非常に少ない

考えてもらうことから始める活動

中学生の合同会議の創設・・・学校教育の枠組みでは難しい



社会教育の出番

- 文化部活動のコーディネイト（既存のものに限らない）

従来のまま地域移行すのではなく、持続可能な形に変えるという視点が必要である

# これからの改革に必要な視点（まとめ）

- 子どもたちがスポーツや文化芸術活動に触れる機会を公的に保障してきた部活動は、日本が蓄積した極めて重要な機能であった
- そうした良さを活かしながら、これからの社会でも持続可能性の高い改革が必要である  
（例：先生をはじめ一部の人を犠牲にしない）
- 子どもらの考えを主体とした改革を  
（例：地域で他校の生徒と一緒に活動したいといったニーズ）
- 学校教育から生涯学習領域への転換（予算措置、地域資源も含めて）  
（一過性で終わらない）